



議員定数削減案は賛成少数で否決!

九州北部豪雨災害 復旧予算は開会日に可決

9月定例会では、6月定例会で総務文教委員会による「継続審査」となっていた議員定数削減案が委員会で賛成少数否決となり、本会議でも同様に賛成少数のため否決となりました。豪雨災害復旧関連予算は、急施を要することから開会日に議決することとなり、審議の結果原案可決となりました。

9月議会トピックス
今議会では、災害復旧関連予算の中に農地や公共土木施設のほか「恋ぼたる温泉館」修復予算が含まれており、多くの質疑がなされました。一部を紹介します。

問 「恋ぼたる」が浸水したが、地盤高に問題はなかったのか。
答 県が広域公園を整備する際に作成した計画に沿っている。今回の水害が、観測史上最大水位であったこともデータとしてある。

問 今回の補正予算は主に何に使うのか。
答 機械棟を守ることが最重要。今回と同様の浸水にも耐えられるものとする。

問 指定管理者への補償はないのか。
答 協議事項となるが、申し出は現段階ではあっていない。

また、6月議会から「継続審査」として総務文教委員会で審査されてきた議案第38号（議員提案）筑後市議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例制定については反対討論が2人の議員から行われ、賛成討論はありませんでした。採決の結果賛成4のため、賛成少数否決となりました。

反対討論
◆総務文教委員会は全国の類似団体の調査も行ったが、16人は筑後市にはあてはまらない。また他市にも赴き調査・面談されたが、定数減は議会活性化につながらず、常任委員会数も現行の「3」は必要との意見を得ている。

◆議員は住民とのパイプ役、定数が減ればパイプは細くなる、また議会は行政の監視役でもあり、定数が減れば監視機能も低下する。

7日	開会・会期の決定・諸般の報告・議案上程・提案理由説明・議案質疑・委員会付議案件審査委員長審査報告・討論採決
8日	9日 休会(土・日)
10日	11日 考案日
12日	13日 一般質問
14日	考案日
15日	17日 休会(土・日・祝)
18日	議案質疑・諸般の報告質疑・議案常任委員会付託・決算特別委員会の設置及び議案付託
19日	考案日
20日	常任委員会付議案件審査
21日	考案日
22日	23日 休会(土・日)
24日	26日 決算特別委員会付議案件審査
27日	委員会審査報告 議案討論採決・追加議案上程・提案理由説明・質疑応答・討論採決・会議録署名議員指名・閉会

議案第43号
平成24年度筑後市一般会計補正予算(第3号)
(全員賛成 原案可決)

問 定住促進のための補正予算は臨時職員人件費が主だが、何をしようのか。
答 現在、危険な老朽家屋や使用可能な空き家の調査を職員が現地に行っている。職員不在時の対応や、職員が集めたデータを整理するなどの事務補助を行ってもらう。財源は国の緊急雇用創出事業臨時特例基金を活用。

問 この事業によって、何をしようのか。
答 目的は二つある。調査を行って、一つは周辺に危険を及ぼすような老朽危険家屋を把握し、今後の市の対策を検討する。二つには、使用可能な空き家については「空き家バンク」に登録をお願いするなどして、定住促進

につなげていきたい。
問 調査は正規職員が行うというが、地元のことを一番よくわかっているのは行政区域長や民生委員など。調査にあたって連携は取れているのか。
答 調査を行うことの市民への通知は行っているのか、また家屋内に入っている調査を行っているのか。
答 当然協力をお願いしているし、地元の協力なしにはできない事業と理解している。

「広報ちくご」には調査開始前に「敷地内までは入れらせてもらいます」という記事を掲載している。職員は「筑後市」という腕章を付けて回っている。家の中にまで入ることはしない。

問 今回の補正に法人市民税の「還付金」2千2百万円が計上されている。3年前にも6千万円ほど補正されたこと記憶するが、現在の市内企業の経営状況に対する

る市の認識を問う。
答 前回の補正は、いわゆる「リーマンショック」による景気の冷え込みが要因だった。今回は円高の定着、ヨーロッパの債務危機、タイの洪水さらには東日本大震災も影響し、市内にある海外への輸出分が大きい企業の業績が悪化しているものと判断している。

問 今年度予算で計上されている法人市民税の確保はどう見込んでいるのか。
答 現時点での概算というところでの答弁となるが、当初3億8千万円ほど見込んでいたが、業績が非常に厳しいと分析しており、1億円ほど減るのではないかと。

議案第56号
平成23年度筑後市水道事業剰余金の処分について
(賛成17 原案可決)

問 例年のように計上されているが、西牟田水源



地の改修も終わったし、この際、利用料金の引き下げを検討してもいいのではないかと。
答 県南10市町の料金の比較もやっている。自治体ごとに算定方法は異なっており月28㎡以上使うと県南10市町では筑後市が最低となる。決して高い料金設定にはなっていないと判断している。

また老朽化した施設の更新に加え、北牟田水源地では耐震工事が必要との診断結果が出ていることから、現在では料金の引き下げは考えていない。